



して実験によって自らの正しさが認められれば、自らの力に大きな自信をもつこととなります。自分が正しいと確信していたにもかかわらず間違いだという結果になれば、次からより慎重に、より深くアタマを働かせることとなります。こうして問題と取り組む能力や姿勢というものが育つてくるのです。」

今度の学習指導要領改訂が、五〇年以上も前に提唱された仮説実験授業の理念を意識していたとは到底思えないが、少なくとも今回のアクティブラーニングによる授業改善の方向性が、五〇年以上前にも存在していたといえそうである。

①板倉聖宣「仮説実験授業〈はねの力〉によるその具体化」、仮説社、一九七四年

②左巻健男「ニセ科学を見抜くセンス」、新日本出版、二〇一五年

③「主体性確立のための「弁証法・認識論」講義」京都弁証法認識論研究会のブログより

（せきぐち まさる・上越市）

最近のコーヒーブレイク

会報から

田口孝

5月。熊本のようなすがテレビで映し出されていましたが、倒壊した家屋がそのままになっていた、テントがずつと並んでいたりして復旧作業が遅々として進まないことが伝わってきました。（その後の豪雨被害にも、心が痛みました。）

そんな中でも学校が再開して、登校する子どもたちの姿は熊本の方だけでなくテレビを見ている私達も元気づけてくれます。

11年前の中越大震災直後の学校再開の朝、私は玄関で子どもを迎える係でした。嬉しそうにランドセルを背負ってやってくる様子を今でも忘れられません。「会いたかったよ」「何してた?」「また一緒にいられるね」と。

にいがた

北から南から



不登校をしていた子どもたちも「先生・・・私、大丈夫だったよ」とやってきました（翌日から欠席しましたが・・・）。

私の子どもの行っていた中学校では、「11月*日に学校が再開します。服装は制服ですが、ない人は何でもいいです。持ち物は筆記用具。準備できなかつたら何も要りません。余震に気を付けてきてください。道路事情が悪いから気を付けて来てください」というような内容のプリントが届きました。普段はスカート丈が長い短いか、シャツが出ているいないとかうるさい学校でしたが、そんなことはどうでもいいから、誰もが「とにかく生命があつて、そこに存在していること・・・」を何よりも尊く感じていたのだと思います。

今年一月に26年度の不登校の状況が発表（新潟県教委）されました。

30日以上欠席者は、小学校435人、前年比32人増。中学校1673人、前年比3人減。合計2108人は、子どもの数が減っているので小学校0・38%、中学校2・68%の

発生率です。小学生が、260人に1人。中学生は、38人に1人は不登校と、2年連続の増加で深刻です。

不登校の子どもがいるのは42・9%の小学校、91・6%の中学校です。

学年が上がるにつれて増加・・・不登校扱いにならない10日～30日未満の子どもたちも、3年前の1・6倍になっています。数にはあがらない保健室登校や相談室登校、夕方登校、遅刻や早退などを入れると途方もないくらいの子どもたちがSOSを出しているということになります。

県教委も、どの子ども、どの学校でも起こりうると考えて・・・と未然防止、中一ギャップ、早期に発見即対応、対策委員会設置、校内の居場所作り、関係機関との連携などの対応を打ち出していますが、そもそも学校が窮屈になっていないのかという問い直しを忘れてはいけないと思います。

「5月 コーヒーブレイクの会報」より



みなさんお元気ですか？

「世の中をあげてざわざわと動く春はせかされるようで嫌だ。何かをしなくちゃだめだと強迫されるようだ。今年も、一人置いてきぼりにされるようで嫌」と話してくれた青年がいきました。「ちよつと怖いけど仕切り直し。不安だらけの僕を見捨てないで見ていてね」という子もいました。

進学した方、どこも行かず家にいる事にした方、それぞれの春をどのように過ごしたのでしょうか。お話においでください。

お母さん方の声から

○子どもを褒める時に、よく「****してすごいね。」と言っけど、これは上から目線ではないのだろうか。

「****で、お母さんはたすかつたよ。ありがとう」と言えるようになりたい。

○今を取り戻すということ。過去でも未来でもなく、子どもは今を生きている。今を大切にしている。たとえば、「今何が好き？

一番好きな事教えて。何が嫌い？」と今の事を聴いてやる。おしゃべりをさせる。一緒に関心を持つてやる。

どこまで話を聞いてくれるのか子どもは大人を見ている。

○精神科からもう薬で疑問があつたらとことん医師に聞こう。朝起きれない、ボーとする、集中できない、くらくらするなど薬の副作用の可能性がある。

○家族以外の人とかかわらせたい。たとえば私が行く写真教室に子どもがついてきた事があって、子どもは結構楽しんでた。先生も周囲の人たちも「またおいで」とかわいがってくれた。チャンスだと考えている。

来月、写真教室があるのだけど、子どもも行くといいなあと期待している。

でもどんなふうに声をかけたらいのだろう。

↓ 参加した皆さんから

「行かない？どうする？」という問いかけは×。「俺に何をさせたいの？何を狙って

にいがた

北から南から



いるの？」と子どもは裏をかく。ストレー
トに言ったらどうだろう。「お母さんが行
きたいから、あなた一緒にきてくれない？」
○今振り返ってみると、子どもを褒めないで
叱ってばかりいた。

○若者サポートステーションに行けたらいい
と思っている。どういいういきさつで子ども
がそこに行くようになるのか詳しく聴きた
い。

情報のある人は、教えてほしい。

○長く家に引きこもり状態。私（お母さん）と
も話をしなくなった。

↓ 参加した皆さんから

- ・ お母さんになにか言われて答えられなかつ
たらどうしようかと考えているのでは？
- ・ つらいので黙っているのではないだろうか。
- ・ 「お母さんの期待にこたえられずに申し訳
ないヤツ」と悩んでいる？

最近の例会がとても充実してきました。

読者のみなさんどうぞおいでください。

(たぐち こう・長岡市)

退職後の夢

平田 洋子

二〇一六年三月三十一日、新潟市の小学校
を定年退職いたしました。私を押さえつけて
いた重い大きな石が取り除かれたようなよ
うな心境でした。定年退職するまではと、無理を
したり我慢したり休んだりの毎日でしたから。

若い頃すばらしいと思うものが三つありま
した。そのうち二つが「京都」と「教育」で
す。「教育」というすばらしい営みに携わり
たいと思い、子どものために楽しい学校をつ
くり、楽しい授業をしたいという夢を持って
教師になりました。子どもと楽しく過ごした
こともたくさんありました。職場の友だちと
楽しく交流したり、組合活動も自分なりに頑